

第26回 口腔機能って何だろう？

＝「認知症の方」の食事拒否の原因と対処法について＝

(その1)

北九州在宅医療・介護塾
塾長 久保 哲郎

認知症が進むと、お食事の時間になっても、食べることを拒否する方がいます。食事を拒否されると、介護している人にとっては、「栄養不足になって症状が進むのでは？」と不安になることがあります。

そこで、今回からは「認知症の方の食事拒否の原因と対処法について」をご紹介します。

認知症の方が食事を摂ることを拒否する原因として、まず、①食べ物として認識できていない場合があります。目の前の食事が、食べ物かどうか分からない、これは、認知症の中核症状の一つ「失認」と呼ばれる症状で、この場合の対処法は、「美味しいごはんができましたよ！」など、目の前にあるものが食べ物であることをご本人に分かってもらえるよう、声を掛けてみてはどうでしょうか。

②食べ方を忘れている場合があります。これも、認知症の中核症状の一つ「失行」と呼ばれる症状です。この場合の対処法は、ご本人の向かい側に食事を持ってきて、一緒に食べてみてはどうでしょうか。「一緒に食べましょう。」と言って、自分が真っ正面で食べ

ている様子を見て戴き、食べ方を真似して戴くとつられて食べてくれることがあります。

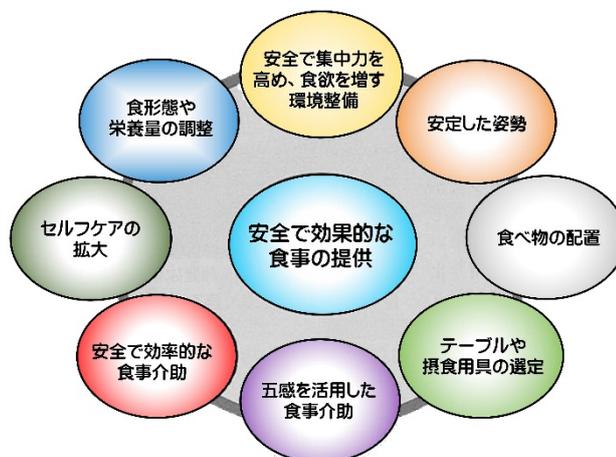
③注意が食べ物の他に向いているため席に着かない場合があります。食事の準備が出来ているのに、何時までも席に着かずに徘徊してしまうこともあります、食事よりも大切なこと（例えば、他にしたいことがある、行きたい場所がある、他）があるため、席に着かずに徘徊してしまうケースです。

この場合の対処法は、徘徊が続いている場合には、ご本人の気が済むまで一緒に歩いてみて、歩き疲れたところに座って休むことを勧め、座ってくれたところに食事を出してみてもはどうでしょうか。 次回に続きます。

※口腔ケアや食介護等で困っている方は、本会事務局までFAXでお尋ねください。事務局より対応法等について回答させていただきます。FAX：093-882-5599

安全で効果的な食事を提供するための基本技術

口から食べることが困難な方には、安全・安楽・自立性・効率性を考慮した食事介助が求められます。



「口から食べる幸せをサポートする包括的スキル、小山珠美 編集」